

研究集会「北極環境研究の課題と展望」

開催月日：2011年1月18日（火）－19日（水）（全日の予定）

場所：国立極地研究所・大会議室（予定）

研究集会世話人：山内 恭（極地研）、宮岡 宏（極地研）、大畑哲夫（JAMSTEC）、
榎本浩之（北見工大）

趣旨：

北極域環境に関する日本の研究推進が、今年に入ってから活発に議論されています。文部科学省の科学技術・学術審議会の下に北極研究検討作業部会が作られ北極環境研究推進方策が検討されています。そこでは、重要課題や北極環境研究コンソーシアムの構築、北極プロジェクトが議論されすでに中間報告が出されています。そこで出されてきた重要課題を含め、以下の課題を中心として関連する大気・海洋・生態・雪氷・陸域（水文、物質循環）・統合分野（各種モデル、データ、衛星）および研究基盤等に関する「課題と展望」の議論と情報交換を行いたいと考えています。

- 1) 北極圏気候モデルの改良・高度化
- 2) 観測研究を通じたプロセスとフィードバック過程の解明
- ① 北極海の急激な変化の発生と原因
- ② 北極圏の雲、エアロゾル、雪氷が放射収支に与える影響
- ③ 氷床・氷河群の変化の実態とその機構
- ④ 永久凍土の融解過程とその影響
- ⑤ 陸域および海洋生態系の変化の実態とその機構
- 3) 大気・陸域・海洋系の持続的変動監視。
- 4) 研究基盤整備、測器開発。

本研究集会で、日本の北極域環境の研究者が何を考え、5年～10年のスケールでどのような研究を構想しているかを確認し、どのような研究の優先度が高いか、またそれらを実現するための研究基盤・開発として何が必要かなどについて、コミュニティーとして情報交換・議論を行い、一定の方向を出すことを考えています。

なるべく多くの方に参加していただき議論に参加して頂ければと思います。発表内容を、研究提案書という形で提出していただき、それに沿って発表してもらい、記録として残したいと考えています。また、都合により出席できない場合には、研究提案書のみ提出も可能です。

注：北極研究検討作業部会の中間報告のHP:

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu2/035-4/houkoku/1296814.htm

申し込み・発表の注意点：

- グループレベルの発表を歓迎しますが、個人・機関レベルの提案ももちろん可能です。
- 発表（ppt）10分程度、質疑応答10分程度を予定しています（発表申し込み数に

よる)。発表する方は必ず、事前に研究提案書を提出してください。研究成果発表会ではないので、発表の際には成果などの説明は必要な範囲に止めてください。

○研究提案書は、研究提案書様式（添付）に従って記述してください。本会議における参考資料として扱われます。

○旅費は基本的には自前をお願いします。ただ国立極地研究所の共同研究・研究集会経費を一定額あてることができますので、旅費の必要な方は早めに参加申し込みを行ってください。

申し込み手続き等スケジュール：

○参加する際に旅費の必要な方：12月21日（火）までに、極地研・吉岡（Email: hokkyoku@nipr.ac.jp）まで参加・提案書申込書（様式1）を送付。

○参加する際に旅費の不要な方：12月31日（金）までに、参加・提案書申込書（様式1）を同じく極地研・吉岡まで送付。

○研究提案書の送付：2011年1月11日（火）までに、研究提案書（様式2）を同じく極地研・吉岡まで送付。

○参加申込者へのプログラム送付：2011年1月7日（金）の予定。